

クラス	TU310	担当教員	西島 千尋
テーマ	音楽から福祉・教育・社会を考える		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】『クラシック音楽はなぜ〈鑑賞〉されるのか—近代日本と西洋芸術の受容』(単著、2010、水声社)、『音楽表現(実践保育内容シリーズ)』(共著、2014、一芸社)</p> <p>【論文】「日本音楽療法史におけるミュージック・ケアの位置づけとその特性」(単著、2017、『日本福祉大学社会福祉学論集』136、pp. 101-125)</p> <p>「学校教育において「異文化の音楽」はいかに教えられるべきか—1980年代 the British Journal of Sociology of Education において展開された K. スワニクと G. ヴァリアミー&J. シェファードの論争をめぐって」(単著、『音楽教育学』38(2)、pp. 1-7)</p> <p>【研究課題】「学校教育において多様な音楽文化をどう扱うか」「日本における音楽療法」</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：音楽教育、音楽文化、音楽療法			
目的、内容、方法、授業計画等：			
<p>【目的】 このゼミでは、音楽について学ぶことを通して福祉・教育・社会について考えられるようになることを目指します。日本では音楽が義務教育として行なわれているので、歌ったり、楽器を演奏したりといった機会があったと思います。しかしゼミでは、歌ったり演奏をしたりするのではなく、「考え」ます。音楽について考え、何が子どものためになるのか、音楽で何ができるのかなどを考えることのできる保育士・教員を目指します。</p> <p>【内容・方法】 グループや個人で、音楽に関連するテーマについて調べます。調べた内容をレジュメをもとに発表し、ディスカッションをします。さまざまな意見があることを知り、音楽の背景にある事柄(学校教育の制度、日本の音楽教育の特徴、音楽療法の歴史や現状)についての考えを深めます。</p> <p>【授業計画】 3年生では、音楽についてのさまざまな知見を広げることが目標です。3年生の前期は、音楽を取り巻くいくつかの基礎的な事柄について考えます(日本の音楽教育の特徴、特別支援学校における音楽教育、世界の音楽教育、音楽療法、音楽メディアの変遷：レコードからオンライン・ミュージックまで、音楽と進化論の関係、音楽と脳の関係、など)。3年生の後期は、各自が興味をもつテーマについて考えます(これまでの例では、アイドル、音楽科の教科書、谷川俊太郎の合唱作品、ボーカロイド、才能教育(スズキ・メソード)、療育における音楽活動、ディズニー映画の音楽、など)。 4年生では、各自の興味関心を深め、問題意識をもって課題に取り組むことが目標です。これまでの例には、「ボーカロイド作品におけるボカロPの役割」「放課後等デイサービスにおける音楽療法」「なぜAAAは人気があるのか」「才能がなければ音楽ができないのか」「なぜディズニー映画の音楽は人を惹きつけるのか」「特別支援学校における電子楽器の可能性」「ろう学校における音楽教育」などがあります。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>*音楽へのアプローチは、きいたり、うたったり、演奏したりするだけではありません。音楽を「考える」ことも、とてもたのしいことです。</p> <p>*これまで私は、「世界にも日本にも楽譜のない音楽文化がたくさんあるのにどうして日本の音楽教育は楽譜を読めなければだめなんだろう、どうしてクラシック音楽が授業の中心なんだろう」「世界には老若男女、どんな人でもエンジョイできる音楽文化がたくさんあるのに、どうして私たちは音楽=楽譜、音楽=ピアノと思い込んでいるんだろう」という疑問をもとに研究してきました(石川県の太鼓文化やアフリカンアメリカンのゴスペルやダンス文化、富山県の獅子舞など)。そして今は、音楽療法の研究をしています。世の中には音楽があふれていますが、音楽をのぞくと、その土地や人々の暮らし、考え方、生き方がみえてきます。そんなふうに音楽から何かをのぞいてみたい人を募集します。</p>			